

個別保健事業取組状況（一覧）

番号	事業名	事業目的	取組内容	目標	達成状況	課題
①	特定健康診査事業	特定保健指導対象者や重症化予防指導事業対象者を把握するために特定健診を受診してもらう。 必要な方に必要な保健事業をご案内できるように、国民健康保険被保険者の健康状態を把握する。	集団健診（市内5か所）、施設健診（集団健診を受診できない方対象）、人間ドック、かかりつけ医による「みなし健診」の実施及び周知を行う。	①集団健診を必要回数実施する。  ②特定健診受診率 58%	①必要回数である27回実施することができた。  ②令和5年度評価 （参考：令和3年度 47%）	健診受診率の目標値58%に対して、45%前後で推移しており、目標達成が難しい状況である。集団健診や人間ドック費用助成を活用して受診者数を増やしつつ、施設健診やみなし健診を周知し、受診率向上に繋げたい。また、市以外が実施する健診（JAミニドックなど）に参加した被保険者の健診結果取得に向けて情報収集を行う。
②	特定健康診査未受診者対策事業	特定健診未受診者が、自己の身体や生活習慣を見直す手段として特定健康診査を受診する。また、受診率を向上させるために、未受診者の未受診理由を把握する。	未受診者に対し年齢別の方法でアプローチを行い、未受診者用に開催する集団健診か施設健診の参加を促す。	①未受診者に対する受診勧奨実施率 100%  ②事業対象者の特定健診受診率 30%以上	① 100%  ② 17.1%	訪問、電話、通知などに勧奨を実施した。訪問による受診勧奨は成果がでているが、受診率は目標値に達することができなかった。自身の予定に合わせやすい「施設健診」や医療機関での検査結果を特定健診とすることができる「みなし健診」を周知し、受診率に繋げたい。
③	特定健康診査結果説明会事業	自身で生活習慣の改善プランを立て、実践することができる人を増やすために特定健診結果説明会を通して保健指導を実施する。	特定健診結果説明会の会場で、栄養講座・運動講座の説明を行う。また、個別に健診結果の確認方法や生活習慣の振り返りや生活指導、受診勧奨等を実施する。	①欠席予定者に対する再勧奨 100%  ②特定健診結果説明会参加率 80%	① 100%  ② 69.8%	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、これまでのように積極的な参加を呼びかけることが難しい状況である。しかし、生活改善する意欲を向上させるためには対面での指導が有効であるため、今後も継続したい。
④	特定保健指導事業	専門職の支援を受けながら自分に合った生活習慣改善のプランを立て実践することができる人を増やすことで、特定保健指導対象者の出現率を減少させる。	厚生労働省が定める「標準的な健診・保健指導プログラム」に基づき、特定健康診査の結果により保健師または管理栄養士が面接を行い、生活習慣を改善するための行動計画を決定し、自主的かつ継続的な取組が行えるよう、グループ支援や個別支援を実施する。	①特定保健指導実施率 i 集団健診 85%、 ii 人間ドック、施設健診等 20%  ②指導実施者の次年度特定保健指導出現率 80%以下	①令和5年度評価 （参考：令和3年度 i 集団健診 94%、 ii 人間ドック、施設健診等 4%） ②令和5年度評価 （参考：令和3年度 59.8%）	人間ドックや施設健診利用者に対する特定保健指導の実施率が低い状況となっている。集団健診とは異なり、受診時や受診後に対面でアプローチをする機会がないため、指導に繋がりにくい。指導を実施するための関係性の構築が課題である。また、人間ドックについては、初回面接を委託できる医療機関を増やせるよう働きかけていく。
⑤	早期介入事業	特定健診の対象年齢になる前に、健診を受診する習慣のある人を増やす。 生活環境の改善など適切な指導をすることで発症や重症化を防ぐとともに、早期治療が必要な人には受診勧奨を実施する。	集団健診の受診勧奨の実施、(基準値を超えた人に対し)保健指導や受診勧奨の実施を行う。人間ドックの受診勧奨の実施、新規35歳の被保険者に対し個別に受診勧奨を実施する。	①30代の健診受診率 33%	①令和5年度に評価 （参考：令和3年度 12.0%）	30代の健診受診率が低い。市報などを通じて周知はしているが、受診率は横ばいの状態である。妊産婦である等の理由がなく健診を受診しない者へのアプローチが今後の課題である。
⑥-1	生活習慣病予防のための重症化予防事業 （医療機関受診勧奨事業）	自己の健診結果を理解し、重症化する前に医療機関へ受診する者を増やす。	健診受診者に、それぞれ（血圧、血糖、HbA1c、CKD）の値に応じて、医療機関受診勧奨を実施する。医療機関からの指示にもとづき、管理栄養士等が保健指導を行い、実施結果を医療機関に連絡する。	①医療機関受診勧奨実施率 100%  ②要受診判定者の医療機関受診率（集団健診） i 血圧 52.5%、ii 血糖 59.5% iii HbA1c 72.5%、iv CKD 88.5%	① 100%  ②令和5年度に評価 ※1月時点(最終集計は令和5年度) i 血圧 58.7%、ii 血糖 49.3% iii HbA1c 59.5%、iv CKD 70.4%	結果説明会や電話で医療機関への受診勧奨を行った。相手の都合に合わせた支援方法をとることで受診の必要性を伝えることができた。今後も継続していきたい。 目標値には概ね達成する見込みであるものの、より受診率の向上を目指すためのアプローチを検討する必要がある。
⑥-2	生活習慣病予防のための重症化予防事業 （保健指導事業）	自己の健診結果の原因となっている生活習慣について、振り返りや改善に努めることができる者を増やす。	事業対象者に保健指導(結果説明会の活用、訪問、来所、電話等)を実施する。半年後を目安に訪問、来所、電話等により経過を確認し、必要に応じて再度保健指導を実施する。	①保健指導実施率 90%  ②保健指導実施者の生活習慣改善率 75%	① 100%（説明会、訪問、電話）  ② 令和5年度評価 （参考：令和3年度 57.1%）	初回の保健指導は、結果説明会時に行うことが多いため、目標を達成することができている。2回目の指導は連絡が取りにくく、何度も連絡が必要な状況となっている。地区担当保健師だけではマンパワー不足のため、在宅保健師等の協力を得ながら、相談・調整をして実施している。
⑦	成人歯科健診	歯周病と糖尿病などの生活習慣病との関連を理解し、健康の保持・増進のために成人歯科健診を受診する市民を増やす。	市と委託契約した医療機関14か所にて問診、歯科健診、歯科保健指導を実施する。	①受診勧奨実施率 100%  ②歯科健診受診率 15.0%	①100%  ② 13.2% ※12月末時点(最終集計は令和5年度)	歯科健診未受診者の中には、すでに治療中のため健診を受けない者がいる一方で、歯科通院歴もなく健診も受けない者がいる。歯科健診を受診して欲しい後者をきちんと把握し、受診率に繋げていくことが課題である。
⑧	運動習慣定着促進事業	生活習慣病予防のため継続的な運動を実践する人の割合を増やす。	特定健診を受診した参加希望者に対し、市の運動施設『ぶれすば胎内』を活用した運動支援事業を実施する。支援内容としては、『正しい歩き方』や『運動方法全般に関する相談』などであり、ぶれすば胎内の職員に実施してもらう。 特定保健指導の対象者をメインに理学療法士を講師とした運動講座を行う。	①運動講座参加勧奨実施率（集団健診） 100%  ②事業参加率 5.0%	①100% 結果説明会時に周知した  ②事業途中のため、令和5年度評価 （参考：令和3年度 2.2%）	保健指導や受診勧奨対象者に運動の必要性を感じ、参加してもらえる事業説明方法を考えていく。
⑨	生活習慣病予防の知識普及啓発事業	喫煙者がタバコと生活習慣病の関係性を理解し、喫煙本数を減少または禁煙できる人が増える。 食習慣と生活習慣病の関係について、正しい知識を深める人が増える。	集団健診受診者のうち、喫煙者に対して保健指導を実施する（短時間支援の実施）。 集団健診受診者に対して、面談や電話、文書の方法により栄養指導を実施する。 特定保健指導者や重症化予防事業対象者向けに、生活習慣病予防講座を実施する。	①個別喫煙指導実施率 50%  ②喫煙本数が減少した人の割合 10%	① 98.3%  ② 17.2%	指導を受けた方から禁煙が体に与える良い影響等をまとめたパンフレットが好評であった。 結果説明会での指導に加え、個別健康教育等情報を共有し、指導を継続していきたい。